

《巻頭言》

プラスチック条約と2023年世界ノータバコデーについて

一般社団法人 日本禁煙学会 理事長

作田 学

1. プラスチック条約について

国連ではプラスチック条約の5月中の策定に向けて活動が進められている。

これに向けてニューヨークタイムズとGlobal Center for Good Governance in Tobacco Control (GGTC: タバコ規制におけるグッドガバナンスのためのグローバルセンター) はStop Tobacco Pollution Alliance (STPA: 日本禁煙学会も加盟) を立ち上げた。STPAはタバコ製品のフィルターを禁止し、数十年にわたるタバコフィルタープラスチック汚染がもたらした環境汚染の全額補償を求めている。ちなみに、日本ではタバコ製品のプラスチックによる環境汚染コストが毎年1,880億円であると示されている¹⁾。タバコの吸い殻の3分の1が海洋に入り、海洋汚染ごみの19~38%がタバコの吸い殻によるとされる¹⁾。

そして吸い殻に由来する毒物は海洋のライフサイクルに長期にわたる害を及ぼす。タバコのフィルターが発癌と海洋汚染を起こしてきたことがSTPAにより、詳細に示されている^{2,3)}。

昨年10月22日にSTPAは国連プラスチック条約への報告書を作成した。

それによると、「紙巻きタバコは地球上でもっともゴミとして廃棄されている商品である。紙巻きタバコのフィルターは、喫煙者に、フィルター付きのタバコなら健康被害が少ないと誤解させる欺瞞的な役割を果たしている。プラスチック製のタバコフィルターは、有害物質を防ぐことができず、予後の悪い肺がんを多く引き起こす原因となっている。さらに、紙巻きタバコのフィルターにはタバコの有害物質が吸着している。タバコ製品はきわめて有害な商品であると認定されている。タバコパンデミックを収束させるためにタバコ産業に対する厳格な規制が必要である。タバコ製品の売り込みを狙って行われるタバコ産業のすべての商業的活動は、人権侵害にあたる。他の商業分野では、企業の社会的貢献は企業倫理と



メーソンさんが撮影した写真。クロハサミアジサシの親鳥が、ヒナにタバコの吸い殻を与えている (KAREN MASON)

して許容されているが、タバコの分野で社会的責任を果たすいかなる活動の余地も残されていない。タバコ産業の商業的活動の本質が、市民の健康を高める目標と完全に衝突するため、タバコ産業の【社会的責任活動】という考えそのものが成り立たない。」としている。さらに、次のようなことも指摘している。

「紙巻きタバコのフィルターの陸地および海洋汚染が数十年間続いてきたため、各国政府は重い環境負荷を背負っている。タバコ製品の使い捨てプラスチックがもたらす環境および海洋汚染は年間200億ドル、この10年間で1,860億ドルの経済コストを世界にもたらしている。この試算には、紙巻きタバコのフィルターの有害物質による影響、吸い殻清掃費用などは含まれていない。【汚染者負担原則】に基づき、タバコ製品の製造者あるいは環境汚染に直接責任のある主体がこれらの損害を償うべきである。FCTCは、追加料金、課徴金、税金、手数料などを通じてタバコ産業にこれらの損害を払わせることも規定している。このような事情を考慮すると、タバコ製品を他のプラスチック製品と同等に扱うべきではない。タバコ製品は人類、とりわけ発展途上国の

人々にとって何のベネフィットもないどころか、莫大な死亡と障害をもたらすものであることが明らかだからである⁴⁾。」

さらに、「セルロースアセテートでできているタバコのフィルターは人体に害がある」とする論文も発刊されている。その結論として、フィルター付きのタバコは公衆の健康と環境を守るために禁止されるべきであるとしている⁵⁾。

2. 5月31日世界ノータバコデーについて

今年のWHOのスローガンは、We need food, not tobacco (何よりも欲しい物、それはタバコでなく食べ物です)である⁶⁾。

「2023年のキャンペーンでは、葉タバコ耕作農家がタバコ栽培を止めてサステイナブルで栄養豊富な食糧生産に安心して転業できる対策の充実を追求します。あわせて、タバコ農家が食糧生産に転業することを妨害するタバコ産業のくわだてを世界の人々に知らせることに重点を置きます。今年の世界ノータバコデーの取り組みは、世界の食料危機の解決に大きく貢献します。葉タバコ耕作とタバコ製品の製造は、世界の食糧不足に拍車をかけています。世界は、国家間の戦争、紛争、気候変動そして新型コロナウイルスのために、深刻な食糧不足に見舞われています。さらに、短期的収入の見込める農産物の栽培という偏った農業政策が食料生産を減らす深刻な影響をもたらしています。」として、葉タバコ耕作は、世界的食料不安をもたらす元凶として典型的な役割を果たしていること：

- 毎年、世界で、350万ヘクタールの農地が葉タバコ耕作地に転換されている。葉タバコ加工のために毎年20万ヘクタールの森林が乾燥用燃料として伐採されている。
- 葉タバコ栽培では、膨大な肥料と殺虫剤が投入されるため、土壌の劣化が激しく起こる。
- その結果、葉タバコ栽培農地の土壌は、食料生産性が極めて低い土壌となってしまう。
- トウモロコシ栽培や放牧地として使用される場合と比較して、葉タバコ耕作農地は砂漠化しやすく、エコシステムに大きな悪影響をもたらす。

低所得国では、葉タバコ栽培が、短期的に利益をもたらすが、持続的な食糧生産を阻害するために、中長期的には、それぞれの国の食料不安を悪化させ

る影響をもたらすことが分かっている。このような事情を踏まえると、葉タバコ耕作を止めて、食糧作物耕作への転作を促進する法律の枠組みを作ることが喫緊の課題であることは明らかである。

2023年世界ノータバコデーキャンペーンは、世界各国の政府と政策決定者の皆様に対して、法律の整備、適切な政策方針の立案、葉タバコ耕作農家に対する食糧作物への転業を促進して、より豊かで安全な生活を保障する諸条件の整備を要請する。タバコ規制枠組条約(FCTC)の第17条には、葉タバコ耕作農家が安心して食料生産分野に転業できる仕組みを進めることが述べられている。そして、第18条にはすべての人々にタバコの生産と消費による環境と命の悪影響をなくすべきことが締約国の義務として示されている。これらの条項を実質的に履行するための努力が求められている⁶⁾。

参考文献

- 1) How should tobacco companies pay for their pollution in Japan.
<https://tobaccoplastics.ggtc.world> (閲覧日：2023年5月12日)
- 2) The Tobacco Industry's Attempt to Conceal Environmental Damage with Greenwashing Efforts.
<https://www.nytimes.com/paidpost/ggtc/uncovering-the-truths-behind-the-tobacco-industrys-deception.html> (閲覧日：2023年5月12日)
- 3) 親鳥がヒナに与えていたのは、タバコの吸い殻だった。衝撃の写真が伝える現実 | ハフポスト WORLD
https://www.huffingtonpost.jp/entry/seabird-feeding-chick-a-cigarette_jp_5d15780ae4b082e55366c858 (閲覧日：2023年2月1日)
- 4) プラスチック対策におけるタバココントロールの意義と役割。国連プラスチック条約への報告
http://www.jstc.or.jp/modules/information/index.php?content_id=364 (閲覧日：2023年5月12日)
- 5) Novotny TE and Hamzai L: Cellulose acetate cigarette filter is hazardous to human health. *Tob Control* 2023; 0: 1-6. doi: 10.1136/tc-2023-057925
- 6) World No Tobacco Day 2023: We need food, not tobacco
[https://www.who.int/europe/news-room/events/item/2023/05/31/default-calendar/world-no-tobacco-day-2023--we-need-food--not-tobacco#:~:text=On%2031%20May%202023%2C%20WHO,No%20Tobacco%20Day%20\(WNTD\).](https://www.who.int/europe/news-room/events/item/2023/05/31/default-calendar/world-no-tobacco-day-2023--we-need-food--not-tobacco#:~:text=On%2031%20May%202023%2C%20WHO,No%20Tobacco%20Day%20(WNTD).) (閲覧日：2023年5月18日)